

# 画面デザインに向く配色，向かない配色

坂本 邦夫

画面デザインやスイッチなどにデザインとして色を使う機会は多い。けれども間違っただけの色づかいをするとユーザに優しい情報にはならない。配色の基本を理解して、見やすく使いやすいデザインを解説する。

(編集部)

## 1. 色の意味と使い方

液晶パネルの価格が下がり、組み込み機器にもカラー画面を利用したGUI (Graphical User Interface) を搭載する機器が身の回りに多くなりました。しかし、見やすい配色も増えましたが、見づらい配色の機器もまだ多くあるようです。そこで本稿では、色の有効な使い方を解説します。

画面上で色を表現するには、単に色の表記法などを知っているだけでは十分とはいえません。色がどのような機能を持っているか、どのようにすれば美しい配色になるのかなどを総合的に考え、目的を達成させるために色を選んでいく必要があります。

1970年代後半～1980年代前半にかけては、モニタの出力がモノクロであることも多く、カラー・ディスプレイは高価なものでした。その後、8色→16色と使える色が増え、現在では、多くの環境で1,677万色のフル・カラーを使うことができるようになっています。それに伴い、使える色も飛躍的に増え、美しい色を表現できるようになり、色彩を機能的に使うことが可能になってきました。

ここで、最近のテレビで表示される番組表を考えてみましょう。そもそも番組表は新聞のテレビ欄に掲載されているものでした。それだけでも基本となる番組表は成り立ちますが、さらに色の持つ情報を加えることで、より見やすく分かりやすい番組表ができあがってきました。

では、テレビ機器で操作するテレビ番組表に加えられる情報とはどのようなもののでしょうか？ まず一番分かりやすいものとしては、「現在選択している番組」が挙げられ

るでしょう。さらに、番組のカテゴリごとに色分けして表示することも考えられます。例えば、ニュース番組には薄い水色、ドラマにはピンクという感じです。テレビ画面は新聞よりスペースに限りがあるため、より情報を分かりやすくまとめようと進化してきたという側面もあります。

このような色の使い方は、情報の持つ意味と色の意味を合わせることで、認識しやすさ(機能性)の向上を狙ったもので、そもそも番組表が持つ機能を損ねるものであってはなりません。図1の右側のように区別ができて、読みにくくなったり、美しさを損ねるようなものであってもいけません。

情報を伝えるための色彩には、機能に合わせた色を使うという考え方は欠かせません。美しく色をまとめるための色彩の基礎知識から、機能的で意味のある色彩を作るための基本的な考え方を身に付けていきましょう。

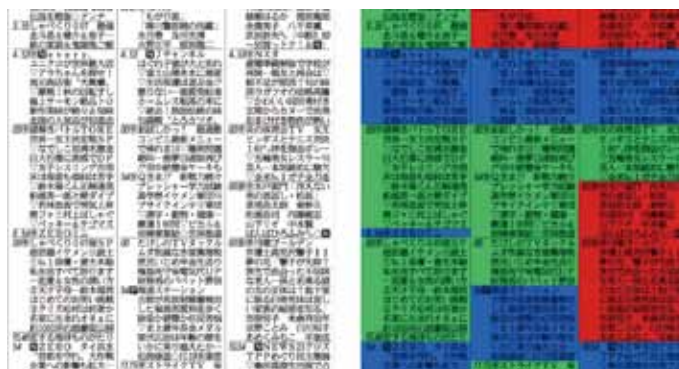


図1 通常のテレビ欄と不必要な色が使われたテレビ欄